

ミツガシワの新潟県における分布 (小林巳癸彦 1980:新潟県植物分布図集 1集)

黒点: 分布地点

中黒点: 最近5年間で生存の確認地 (山間地には中黒点にしていないが、現在でも生育している可能性が高い。)

〔付 記〕

中条町十二天のイタヤカエデ (アカイタヤ)

ミツガシワの調査後、十二天のイタヤカエデ (アカイタヤ) の古木を拝見し、幹周330cmほどであり、県内では巨樹にあたるので、町の天然記念物として保護する価値があると考えられる (写真参照)。

ちなみに環境庁(1991)の「巨樹・巨木林調査報告」では下記のような太さの樹が記録されている。

五泉市菅名岳 305cm (イタヤカエデ)

両津市馬首 360cm (エゾイタヤ)

守門村大倉 370cm, 485cm, 420cm (イタヤカエデ)

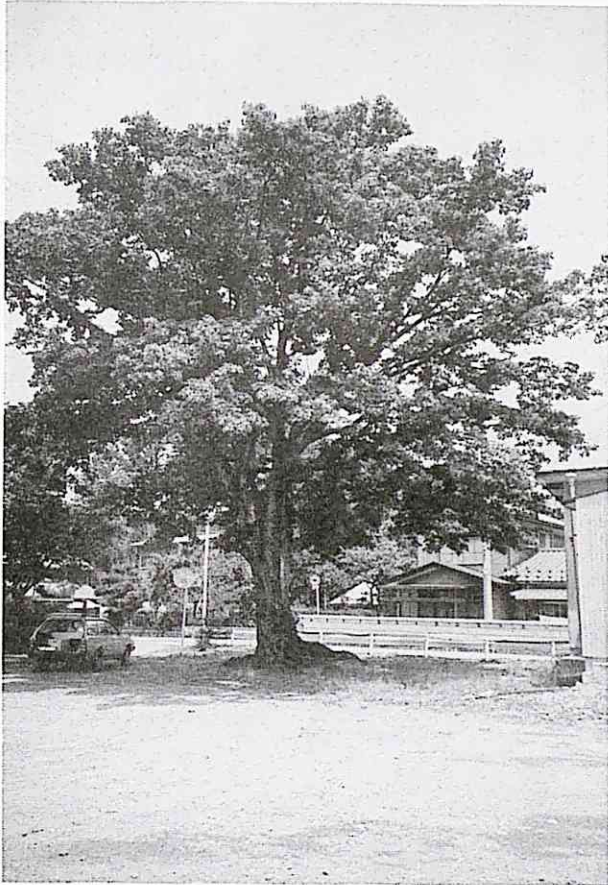
松代町桐山 370cm (イタヤカエデ)

牧村棚広新田 340cm (イタヤカエデ)

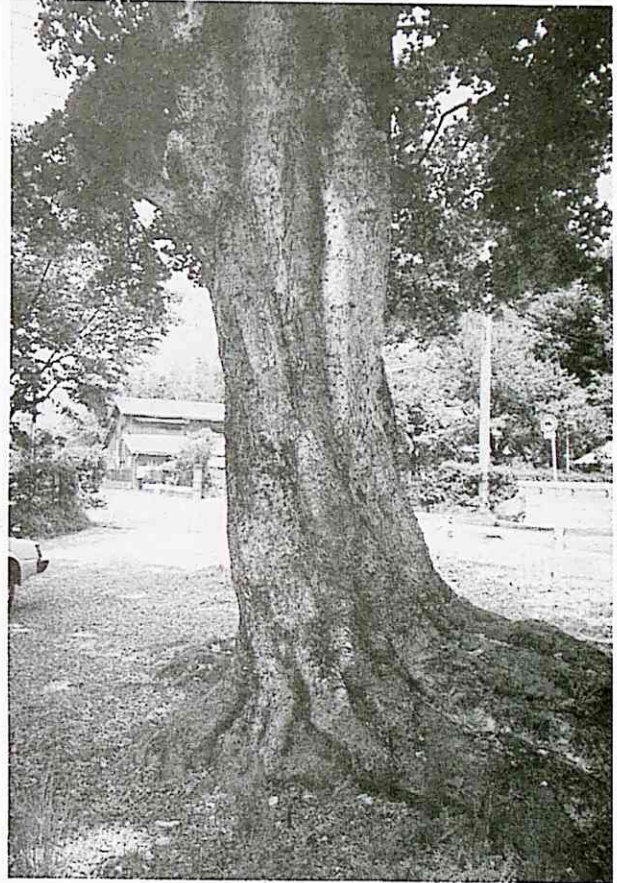
畑野町小倉 500cm (イタヤカエデ)

また、出雲崎町小木ノ城山に 380cm (アカイタヤ) の記録がある。

以上のようにイタヤで幹の直径 100cmを超える樹はそれほど多くないものと思われる。



〔写真〕 アカイタヤの巨樹 (全体) (1995 5 24)



〔写真〕 アカイタヤの樹幹(1995 5 24)

新 潟 日 報

1995年(平成7年)8月17日

日報抄

咲き競う山野
草、さえずる鳥
チヨウが舞い、
螢が飛ぶ。そん
な長岡の里山の
自然復活をめざす「雪国
植物園」造りがスタート
から十年、あと一步にま
でこぎつけた▼汗を流す
のは、土、日曜に出勤す
るボランティアだ。植物
園は市民の共有財産とす
るため市が敷地を購入。
造園は会員を募って、そ
の抛入金と努力奉仕で行
う。管理運営は、会費と
安い入園料で賄うーいさ
さかとつぴな、一人の呼
びかけが原点の植物園で
ある▼大原久治さんは、
役員を務める会社の庭造
りのために入った里山
で、山野草に魅せられた。
夢中になっての山通い。
しかし、そこで見たのは
可憐(かれん)な花々と
同時に、荒廃した自然だ
った。なんとかならない
か。たどついた結論は
「身近な里山の一つを植
物園として保護する市民
運動」だった▼友人に訴

え、市長に説き、住民を
回り歩いた。それだけで
二年かかった。好きなテ
ニスも、ゴルフもやめた。
今の趣味は植物園、とい
う大原さんを包む輪は理
屈ではなく、心への共鳴
のように思える。五億円
の決断をした市長、そし
て金を出す人、労力を提
供する人：ボランティア
は二千人を超す▼ある
日、作業小屋に虫がワー
ッと押し寄せた。殺虫剤
の噴霧に床が黒くなっ
た。その繰り返しの中で、
ふと考えた。「虫のいる
のこそ本当の自然ではな
いか」。退治、という
言葉も退治した。自然の
お返しは、やがてボラン
ティアの生き生きした声
で、あった。「鳥の数が
グンと増えて、四種だっ
たトンボが九種もいま
す」▼こんな数字を「存
じだろつか。人の心と与
える安らぎ、大気浄化や
水源機能など森林の効用
は年額三十九兆二千億
円。平成三年の林野庁試
算である。